

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング株式会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和4年8月2日から令和5年1月18日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B18014、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和4年11月現在）

事業所名： (施設名) 長野市寺尾保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 荻原 健司 保育・幼稚園課長 丸山 隆文	定員（利用人数）： 60名（33名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和43年4月1日
経営主体： 長野市	
所在地：〒381-1213 長野県長野市松代町小島田3571番地	
電話番号： 026-278-3648	FAX番号： 026-278-3648
電子メールアドレス： —	
ホームページアドレス： <a href="http://www.city.nagano.nagano.jp/">http://www.city.nagano.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：2名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・保育主任 1名
	・保育士 10名 ・給食調理員 2名
施設・設備 の概要	(設備等)
	・乳児室 … 2室 ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室
	(屋外遊具)
	・鉄棒 ・のぼり棒

### 3 理念・基本方針

#### ○長野市保育理念(保育所型認定こども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

## ○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

## ○寺尾保育園 保育目標

- たくさんあそんで みんなで やってみよう

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当寺尾保育園は長野市が直接運営する28園(内休園2園)と2認定園のうちの1つで、昭和43年4月に開設されて以降、長野市が運営している。

当保育園は開設当初は定員120名であったが、子どもの減少から昭和59年4月には定員が60名となった。その後、平成13年6月に新園舎の建設に着手し、平成14年3月に新園舎が竣工し定員60名のまま推移している。園舎すでに20年が経過しているが、園の歴史を感じさせないほど維持・管理が行き届いている。そうした中、現在、外壁やLED照明への改修工事が行われている。

当園に通う多くの子どもの自宅のある松代町東寺尾、柴、小島田、牧島、大室地区は長野市の東南に位置し、大室古墳群や柴石の産地、NHK大河ドラマ「風林火山」で有名な山本勘助のお墓などの史跡や文化財などがあり、マニアにとっては垂涎の地となっている。また、周辺は特産の長芋や野菜の畑が広がり、その土地柄から三世代家庭や近くに祖父母がいる子どももおり、昭和60年代から平成初頭にかけて開発された一戸建ての団地もあるが、近年はこの団地の子ども達も成人に達していることから全体の利用数が減少しつつある。

当保育園はその松代町小島田地区にあり、園舎の周りは自然が豊かで北側には千曲川が流れ、子ども達が日常的に散歩をする堤防や河川敷がある。また、地域には大室古墳群が裾野にある奇妙山に繋がる金井山という里山があり子ども達が四季を通して登ったり、同じく奇妙山の山ふところにある農業大学校には花・果樹・野菜などを栽培していることから足を延ばして出掛け、また、その大学校の春の桜は圧巻で隠れた花の名所となっている。

子ども達の園外保育の選択肢も幅広く、四季を問わず天気の良い日には散歩や遊びに出掛けている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)はコースごとにラミネート加工され携帯ができるようになっており、里山や神社、千曲川河川敷、小学校、地域密着型介護老人福祉施設(小規模特別養護老人ホーム)などがマークされイラストなどで分かり易くなっている。四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。

新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、焼き芋会で地域の小規模特別養護老人ホームのお年寄りとの交流や歌とバイオリンの講師とふれあうなどの世代間交流を実施し、長野市を拠点とするプロサッカーチームの選手たちとの交流なども実施している。

また、当保育園の近くには園の多くの子どもが就学する寺尾小学校があり、「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「基本方針Ⅱ『育ちをつなぐ』幼・保・小の連携」の「取組の方向性Ⅱ-3 小学校との連携の充実」に沿い、例年であれば年長の子ども達が就学に向けてその小学校の1年生と交流したり、小学校の音楽会、運動会などへの招待を受けたりして様々な体験をしているが、今年度は新型コロナ対策を取りながら可能な範囲で交流している。更に、その小学校の夏休みに教頭をはじめとした先生方が園を訪れ、子ども達の姿を見て、小学校へと繋げるための情報交換もしている。

現在、当園には0歳児1名と1歳児4名のうさぎ組、2歳児6名のりす組、3歳児7名のぺんぎん組、4歳児8名のひつじ組、5歳児7名のくま組の5つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和4年度の「全体的な計画」の下、園の目標、「たくさんあそんで みんなで やってみよう」に沿い、一人ひとりの発達過程を踏まえ、健康、人間関係、環境、言葉、表現の保育内容の5領域を意識し、子どもが身につける望ましい心情、意欲、態度を育成し、合わせて、子どもの自発的な遊びが深まり、総合的な心身の発達へとつながるようにしている。

当保育園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、一時預かり、おひさま広場等を実施している。一時預かりは保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも要望があれば受け入れ可能となっている。おひさま広場は未就園児と保護者を対象に園開放及び子育て相談を行うサービスでこちらについても受け入れることができるようになっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」に沿いビジョンを明確にしており、令和2年度から令和7年度までの中期計画として「令和2年度に長野県自然型保育の認定を受ける」「令和4年度に福祉サービスの第三者評価を受審する」「長野市運動プログラムの充実・運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成」「幼保小連携の充実」などを掲げ積極的に取り組んでいる。また、当園の今年度の事業計画には重点課題として「保育内容の充実」や「保護者支援」「安全・安心な保育の実施」など6つが掲げられおり、職員は、新型コロナ禍の中、園内研修会やオンラインなどでの園外研修会に積極的に参加し、それぞれの職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上に努めている。また、長野市公立各保育園では「遊びを通して育む乳幼児の学び」がテーマのレポートを作成しており、全職員で研究の成果を踏まえたり、また、考察をすることで質の高い保育に繋げている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が2回目（平成30年度）
---------------	----------------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### 1) 周りの自然環境を活かした保育

園舎北側には千曲川が流れ、遠方には戸隠山や北アルプスの山々を見渡すことができ、近くには大室古墳群、金井山などがある豊かな自然環境の中、2020年度には「信州型自然保育（信州やまほいく）」の認定を受け、自然や農業大学校等の地域を活かした保育を実践している。

千曲川堤防や河川敷は四季を通じて子ども達の遊びの場となり毎日のように出掛け、ゆったりと歩いて草花や昆虫を見つけ観察や採集をし、子ども達は自然の中で五感を働かせ、発見や体験を楽しんでいる。また、堤防の土手で、春・秋は段ボールを使い、冬はそりで土手滑りをして体幹を鍛え、全身で自然の楽しさを味わっている。

幼児は少し遠い里山の金井山、大室古墳群、農業大学校へも散歩に出かけ、山道を登ったり、花・果樹・野菜などの栽培しているところを見学している。長時間歩くことで体力が付き、地域の文化や人々とふれあう機会も持っている。

また、子ども達の身近な遊びの環境として、当保育園の園庭には砂場、樹木のある場、水のある場などがあり、それらが複合的に構成され、遊びのきっかけや拠点となって多様な遊びとなっている。園庭には大きな桜、クヌギ、ケヤキが植えられ、固定遊具として鉄棒やのぼり棒があり、ボール遊びや縄跳び、鬼ごっこなどを行い、十分に体を動かして遊ぶことができ、木陰で休むこともできる。

園庭脇では夏野菜（ナス、キュウリ、シシトウ等）や稲の栽培に取り組み、近くに畑を借りサツマイモ作りも行っている。苗の植え付けから水やり、収穫などを通して成長を観察し、焼き芋会で味わうなど、季節の花や実りを身近に感じて、多くの発見や体験をし、友達同士の触れ合い、助け合いの心を育てている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性 I-1 自然環境を活かした体験活動の充実」でも目指す内容として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」「信州型自然保育認定園を増やす」の3つを掲げており、当保育園でも生命や自然についての興味や関心を育て、命の大切さ、ものの美しさなどに気づく豊かな感性を育てている。

## 2) 異年齢の関わりの中で育つ保育

当園は園児数が33名と少人数であることから異年齢の子ども達と一緒に遊ぶことが多い。

幼児は年齢別の保育を行いながら、散歩や外遊びを通じて異年齢の子ども達が生活を共にする中で互いに関わりを深め、協同して遊ぶことにより好奇心が生まれ、助け合い、思いやりの心が育ち、年齢に関係なく友達としての親しみも生まれ、自分から行動する力を育てるとともに、年齢の違う他の子どもと活動する楽しさや共通の目的を実現させるという喜びを味わっている。

園庭も広く、縄跳びや木登り、竹馬など、体を十分に動かして遊ぶことができ、遊びを通して順番を守るなど社会的なルールを身につけている。また、園舎北側の千曲川堤防、河川敷に散歩に出かける機会が多く、虫探しや花摘み、土手滑りなど自然と共に遊ぶことができ、異年齢との交流や友達との関わりから刺激し合えるような環境づくりにも繋がっている。また、各クラスの遊びが年長児から年中児、更に、年少児へと自然に伝わり、年齢の異なる子ども同士で遊ぶときには、みんなが楽しく遊ぶためにルールや役割分担が自然に生まれており、年下の子どもの様子を真似してやってみようとし、年上の子どもの面倒を見たり、助けたりして思いやりの気持ちを育てている。また、異年齢の子ども達の関わりが続くなかで、誰もが成長とともに、お世話される側からお世話する側になるといった体験もしており、自分より年上の子どもの様子を見て学びながら、ゆっくりと人との関わり方を学ぶこともできている。

異年齢保育を経験した年少児が年長児になったときに、子ども達がお互いを助け合う環境がスムーズにつくられ、保育者は子ども達を応援して見守ることができるともいわれている。異年齢保育には、年齢の異なる子どもとの結びつきが育まれるという、子どもにおけるメリットだけでなく、年少、年中、年長児とそれぞれの育ちがトータルによくわかるという保育者にとってのメリットもあるのではないと思われる。

当園でも、核家族化や少子化という中で生活している子どももおり、異年齢の保育で沢山の子ども達と接することで、年上の子どものは年下の子どものに配慮し、年下の子どものは年上の子どものを尊敬し、互いを尊重する心を育てており、兄弟のような家庭的な雰囲気の中で職員も一人ひとりの子どものを理解し、日々の保育を行っている。

## 3) 職員間の密な連携

当保育園の職員構成は園長1名、主任1名、保育士9名、パート保育士2名、調理員2名となっており、少人数の職員で全園児の様子を把握し、一人ひとりの子どもを理解し、クラスに関係なく対応・援助を行っている。職員間での相談や意見はいつでも、誰にでも相談しやすく、保育や対応の仕方などいつでも話し合い、連携を密に取り合い、質の高い保育に取り組んでいる。

当園では、毎週、職員会を開き、情報の共有化を図っている。IT化に伴い「保育業務支援システム」を導入し、年間指導計画、個別指導計画、月案、週日案、個別支援計画、身体の発育状況、健康診断の結果、発達状況など、長野市公立保育園として統一された様式に記録している。職員の記録内容、書き方に差が生じないように園長、主任が個別指導や全体研修を行い、記録が適切に行われるようにしており、また、幼児ノート、未満児ノート、ケース会議・リスクマネジメント委員会などの記録、「保育業務支援システム」などからも情報の共有ができるようになっており職員間の意思疎通に繋がっている。

更に、未満児会、幼児会、職員会でも保育の実践の報告と振り返りを行い、特別支援教育・保育研修会に参加し、その研修内容を全職員に報告し、共通理解を図っており、年度末には子どもの姿を職員間で確認しながら次年度の全体的な計画を立案し共有化している。職員は福祉サービス第三者評価の「内容評価項目」に準じた自己評価も行い、園全体の評価に繋がると共に、課題については職員会で検討し次年度の事業計画に重点課題として取り上げ協働している。

当園では実践経験のある保育士を中心に、保育士としての自覚をもちながら園全体の保育の質の向上に努めており、また、異年齢の子ども達で関わる機会を多くもっていることから職員の連携がスムーズに取られており、複数の視点での子どもや保育に対する理解を可能にしている。

#### 4) 地域の人々との交流

当保育園では「たくさんあそんで みんなで やってみよう」という園目標の下、「小学校、地域とのかかわりを大切にする保育」を掲げ活動しており、地域の人々との交流の機会を多く持ち、家族や保育士以外の他者とふれあうことでコミュニケーション能力の発達を促している。

当保育園の事業計画や全体的な計画としても文書化し、地元寺尾地区などの人々との積極的な連携を図り子ども達が地域の社会で色々な体験ができるようにしている。例年であれば地域のイベント（松代美術展、松代でひなまつり、エコール・ド・松代の灯籠飾り、JAの絵展示など）に積極的に参加し、また、寺尾地区の運動会に子ども達と保護者、職員が参加し地域の人々と交流している。今年度、JAの絵展示に年長児の作品を出品している。

園を中心とした、小学校、農業大学校、小規模特別養護老人ホーム、千曲川河川敷、里山の金井山などのイラスト入りのフィールドマップがあり、天候にかかわらず午前中に散歩に出掛け、地域の人々に挨拶をするなど、大人との関わりもできるようにしている。新型コロナ禍の中、感染防止の対策を十分行い、近くの小規模特別養護老人ホームのお年寄りとの世代間交流、未就園児対象のおひさま広場（園開放、育児相談）、地元の中学生の職場体験の受け入れなどが実施されている。

また、新型コロナ感染拡大で制約を受け今年度は自粛しているが地域を知る機会として地区の方々の協力を得て、例年であれば特産の長芋堀りの様子を見学したり、子ども達が就学する小学校の運動会や音楽会へ招待され小学校1年生と交流するなど、小学校とも密に連携をとっている。

そうした中、今年度もさつま芋の栽培について地区の方から畑を提供していただき、苗植え、水やり、草取りを園児の手で行い収穫までの成長の様子を知ったり、焼き芋会では歌とバイオリンの演奏者とふれあったり、更に、ハロウィンで近くのJA支所や小規模特別養護老人ホームを訪れ、職員やお年寄りと交流したりと、様々な交流を通して感性、協調性、社会性を育てている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」では「基本方針IV『育ちを支える』家庭・地域との連携」としてその取組の方向性「IV-2 地域交流活動の充実」を掲げ、「地域の文化に触れ、地域に親しみや愛着が持てるように地域交流を指導計画に位置づけ、活動を推進」「地域住民が教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指す」と明文化しており、当保育園では地域の人々と協力して健やかな子どもの心身の発達を図っている。

#### ◇改善する必要があると思う点

##### 1) 感染症発生時の更なる職員の確保

ウィズコロナが叫ばれる中、保育所職員についても幾つかの感染経路から新型コロナウイルスに罹患するケースが考えられ、感染の拡大が子どもや職員に広がることも多くあるものと思われる。職員に体調不良がある場合、勤務を控えることが重要で、現状での発熱、頭痛、倦怠感、咳嗽、咽頭痛、胸の痛みなどの体調不良は新型コロナウイルス感染症の症状であるといっても過言ではないと言われている。そのほかにも下痢や嘔吐、味覚・嗅覚障害などの症状がみられることがあり、体調が悪く感じた際に職員が休むことができる職場環境が欠かせなくなっている。

人手が不足し、余裕がない多くの保育現場で、これらの対応は困難を極め、職員が休むことになった場合にどこにどのように応援を頼むか、当園として予め代替職員は確保しているが更に市保育・幼稚園課とも相談し万が一に備えられていくことが良いのではないかとと思われる。

市の公立保育園で構成しているブロック内でも代替職員の調整が難しい場合もあり、保育現場の職員は多忙を極めてるように思われる。

職員の中には新型コロナウイルス感染症に罹患した場合に重篤化するリスク（高齢、基礎疾患がある等）を抱える職員や家族に子どもや高齢者がおり陽性者が出た場合は待機しなければならない場合も少なからずあるものと思われる。

新型コロナやインフルエンザなどの感染症が発生する時期に、急な職員の欠勤に備え、代替保育士を更に速やかに確保し、保育に支障がないように新型コロナウイルス感染症等発生時のBCP

(Business Continuity Plan、事業継続計画)等の対策を市全体として整備されていくことを期待したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通評価項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和 5年 1月18日記載）

今回、第三者評価を受けるにあたり、全職員で各種マニュアルの確認、長野市の保育理念や基本方針を基に園目標や計画に沿った保育が進められているか、園内外の環境設定について園内研修を重ね、職員の意識・保育の質の向上につながる良い機会になりました。

コスモプランニング様には自園の良い所や改善点を示していただき、特に良い点で上げていただいた「周りの自然環境を生かした保育」「異年齢の関わりの中で育つ保育」「職員間の密な連携」「地域の人々との交流」についてさらに伸ばし、努力して継続していきます。

改善を必要があると思われる「感染症時の更なる職員の確保」については、保育・幼稚園の協力のもと検討していきます。

保護者の皆様にご回答いただいたアンケートでは、心温まるお言葉や、改善を望まれるご意見をいただきました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

職員一丸となり今後も子ども達の為に、よりよい保育を目指し努めていきたいと思っております。